

## 全顎矯正と部分矯正へのアプローチ

### —非抜歯治療と抜歯治療の選択基準—

(医)ヤマチ歯科・矯正歯科クリニック 理事長 山地 正樹



#### 【略歴】

- 1972年 九州歯科大学卒業
- 1977年 九州歯科大学大学院歯学研究科修了、歯学博士
- 1977年 医療法人横田矯正歯科クリニック勤務
- 1979年 ヤマチ歯科クリニック開業（北九州市小倉北区中井5丁目4-26）
- 2021年 医療法人ヤマチ歯科・矯正歯科クリニック理事長

#### 【主な所属学会・研究会】

- ・日本矯正歯科学会臨床指導医・認定医
- ・米国矯正歯科学会会員
- ・日本歯周病学会歯周病専門医
- ・日本臨床歯周病学会指導医・認定医・インプラント指導医
- ・日本顎咬合学会指導医・認定医・評議員
- ・日本咬合学会理事
- ・咬合機能研究会会長
- ・北九州デンタルリサーチ (K.D.R) 会長
- ・九州エッジワイズ研究会 (E.S.K) 会員
- ・日本審美歯科協会会員
- ・厚生労働省歯科医師臨床研修指導医

#### 【著書】

- 『咬合再構成その理論と臨床—咬合と全身との調和』  
クインテッセンス出版, 2013年 (共同編著)
- 『全顎矯正と部分矯正へのアプローチ…非抜歯治療と抜歯治療の選択基準』  
クインテッセンス出版, 2022年  
論文や症例集など約58編

## 全顎矯正と部分矯正へのアプローチ —非抜歯治療と抜歯治療の選択基準—

矯正治療を始めるにあたって最初に行い、もっとも重要な工程が診断である。診断を行う上で大切なことは、患者の主訴を明確にすることである。まず正確な資料採得を行い、そこから問題点をプロブレムリストとして抽出し、診断を行う。

非抜歯治療と抜歯治療について、Angleの時代より論争があり、時計の振り子のように対応が異なってきた。それぞれの利点、欠点を述べて解説する。

咬合治療の進め方は、バイトスティック法で咬合採得を行い、MPAを装着した後、矯正治療やクラウンブリッジなどで咬合再構成を行う。顎関節症では関節円板と下顎頭の位置関係を解説し、その誘発因子と治療方法について述べる。

全顎矯正はAngleⅡ級1類、Ⅱ級2類、Ⅲ級などの中より非抜歯と抜歯を対比させ、どのような理由でそうなったかを解説する。さらに外科的矯正、開咬、歯周矯正、顎関節症の中より興味ある症例を提示したい。

一方、部分矯正は挺出、アップライト、叢生、転位歯をTADやアライナーなどを使用して治療した中より適当な症例を解説したい。

これらの多くが長期経過症例であり、咬合や機能、審美が改善し、心身のパフォーマンス(QOL)の向上が認められた。

これらの講演により、矯正に対する理解が深められ、皆様方の臨床に役立てば幸いである。